



平成 26 年 12 月

「京都市立定時制単独高校」の検討に向けた
プロジェクト会議の設置及び有識者会議の開催について

- 伏見工業高校跡地に設置予定の市立定時制単独高校については、本年7月に策定した「定時制単独校の創設に関する基本方針」(別紙)に基づき、新校の基本的な方向性を検討するための、両校(伏見工業夜間定時制と西京定時制)及び教育委員会による合同プロジェクト会議(下記1参照)を10月末に設置しました。
- これまで、新校に求められる役割や少人数教育のあり方について議論しておりますが、本会議では、有識者等から指導助言を得る機会を設けるとしていることから、12月19日に下記のとおり、第1回目の有識者会議(公開)を開催します。(有識者会議は全3回程度予定)
- 今後も、「基本方針」に示された「検討の観点」について、プロジェクト会議・有識者会議において継続的に議論するとともに、市民意見募集も行いながら、新しい定時制高校の具体像をまとめていきます。

1. 検討組織の構成

- (1) 新しい定時制高校創設プロジェクト会議(11名) ※原則非公開(内部検討組織のため)
 - ・伏見工業高校夜間定時制・西京高校定時制：各 学校長, 副校長(定時制), 教諭2名
 - ・教育委員会：学校指導課担当課長, 課長補佐, 指導主事
- (2) 有識者会議(5名) ※公開

氏名	役職等
竹田 契一	大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学LDセンター顧問
宇都宮 誠	学校法人生野学園 理事長・生野学園中学・高等学校 学園長
水野 篤夫	公益財団法人京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長
伊藤 一雄	高野山大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授
小野 尚志	市立中学校長会進路部会長・市立栗陵中学校長

2. 第1回有識者会議

- (1) 日時 平成26年12月19日(金) 午前10時～ (1時間半程度を予定)
- (2) 場所 京都市総合教育センター 第2研修室(河原町通仏光寺西入)
- (3) 内容 市立定時制の現状と課題, 新校に求められる役割, 少人数教育のあり方等
- (4) 形態 公開・傍聴可能
 ※ただし15名を超える場合は抽選。
 ※会議開始30分前から受け付けを開始し, 5分前に締切ります。

担当：
京都市教育委員会学校指導課
高校教育担当 酒崎・岡本
(TEL 222-3811)

(参考) 市立夜間定時制高校の概要

	伏見工業高校	西京高校
学科	工業技術科 (単位制)	普通科 (学年制)
募集定員	30 名	50 名 (うち, 長期欠席者選抜 5 名)
修学年限	4 年制	3 修制 (3 年で卒業) ※4 年制への変更も可能
資格取得	土木・建築・電気・機械系	情報・商業系
特別支援を要する生徒の在籍率 (平成 25 年 9 月現在)	8.8%	11.3%
新入生の不登校経験率 (平成 26 年度)	55.2%	60.0%
生徒の就業状況 (平成 25 年 9 月現在)	アルバイト・パート 約 6 割 (正社員 0%)	アルバイト・パート 約 7 割 (正社員 0%)

京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針

京都市立定時制単独高校（以下、定時制単独校）の創設に向け、下記の基本方針の下、教育内容や施設設備等の在り方について検討を進める。

記

1 夜間定時制高校の現状と定時制単独校の創設に向けた方向性

全国的に全日制高校への進学者が増加する中で、夜間定時制高校は勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験や特別な支援が必要な生徒をはじめ、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒たちが増加してきている。

また、本市立夜間定時制高校においても、このような状況は同様であり、これまでから、少人数教育はもとより、通常の4年ではなく全日制と同様に3年間での卒業を可能とした3修制の導入や、特別支援に関する専門的知識を有する教員の配置といった様々な改革を進めている。

こうした中、さらに生徒たちの多様な状況やニーズにきめ細かく応えられるよう、学び直しや自立支援等の機能を充実させた新たな教育内容や学校体制及びそれらを実現する施設設備を備えた新設校の設置を目指す。

2 教育内容等に関する検討の観点

- (1) 不登校経験や、発達障害等の特別な支援を必要とする又はその可能性のある生徒の学力保障と進路保障に向けた指導の在り方
- (2) 将来を見据えた生活習慣の確立、資格取得の在り方、進路指導、キャリア教育の充実に向けた外部の専門機関との連携の在り方
- (3) (1)及び(2)を円滑に実施するための教育課程、単位取得、授業時間帯や修学年限等の在り方
- (4) (1)及び(2)を円滑に実施するための人員配置、学校体制の在り方

3 整備地・施設設備等

洛陽工業・伏見工業高校の再編・統合により活用可能となる伏見工業高校の敷地の一部を定時制単独校の整備地とし、施設設備においては、既存の呉竹館（平成21年3月竣工）の活用も含めた整備の在り方を検討する。

なお、伏見工業高校夜間定時制は、平成28年4月開校予定の新しい工業高校へは移転せず、現在地において教育活動を継続することとする。

4 検討の進め方

- (1) 本市立夜間定時制高校の教職員及び教育委員会の職員で構成するプロジェクトを設置し、検討を進める。
- (2) 検討の過程においては、必要に応じて学識経験者や中学校現場等の参画を得る。